

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 13, No. 1

神奈川県立生命の星・地球博物館

Mar., 2007



おしべが花弁になる桜

2005 年 4 月 15 日

木場英久 撮影

こば ひでひさ
木場英久 (学芸員)

入生田駅から博物館に来る途中に歩道橋を渡ります。その中ほどの階段を下りたところに、オオシマザクラが植えてあります。この木は、ときどき異常な花を咲かせます。一部のおしべが、花弁のような形になっているのです。右下の写真の矢印の先をみると、正常な5枚の花弁のほかに、つけ根のくびれた花弁のようなおしべのようなものがあるのがわかるでしょうか。ほかの花には、もっとおしべの形に近いものや、ほとんど6枚目の花弁にみえるようなものもありました。

がく片、花弁、おしべ、めしべなど、花を構成する部品はみな、もともとは葉であったものが変形したもので、相互に形を変えやすい性質があります。これを観察する材料として八重桜がよくつかわれます。八重桜の花をていねいに分解すると、中のほうにおしべと花弁の中間的な形をしたものがあるのをみられますが、このオオシマザクラを使えば分解する必要がありません。さらに、歩道橋の階段の途中からみることができるので、地面からは手の届かないような枝に咲いた花も観察できるかもしれません。